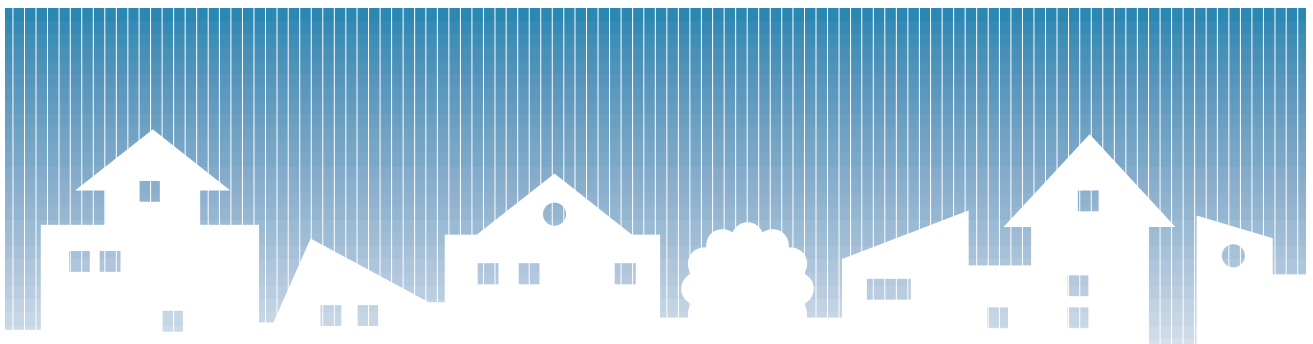


# 富山市が目指すコンパクトなまちづくり

## 〔富山市中心市街地活性化基本計画の概要〕



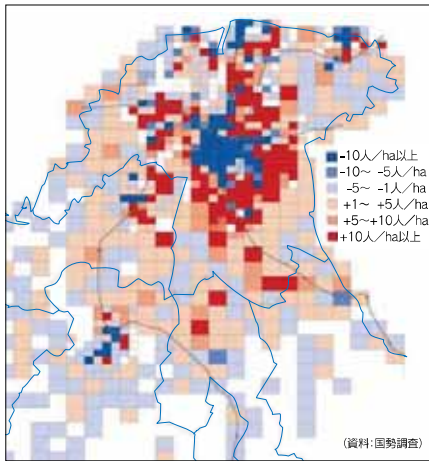
# 明日のための コンパクトなまちづくり。

人口が減少し少子高齢化が進む中、郊外への拡散型まちづくりは限界にきています。  
富山市においてもこうした社会情勢をふまえて、  
これからの新しいまちづくり構想をスタートさせたところです。

ここに紹介させていただいた内容をご覧いただき、  
みなさんの住む「まち」の将来、富山市の「未来」を、  
一緒に考えていきたいと思えます。

## （市街地が「薄く」、「広く」 なり続けています）

富山市は、平坦な地形であること、自動車への依存や持ち家志向が高いことから、戦後一貫して郊外部での開発が進行し、市街地が拡散し続けています。この結果、富山市は、県庁所在地の中で最も市街地の人口密度（41.2ha/人）が低い都市になっています。



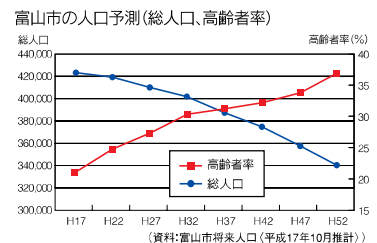
▶ 富山市における人口の増減（過去20年間）  
平成12年と昭和45年の比較  
（資料：国勢調査）

## （このままでは30年後が大変なことになります）

### 1 車を自由に使えない市民が増加します

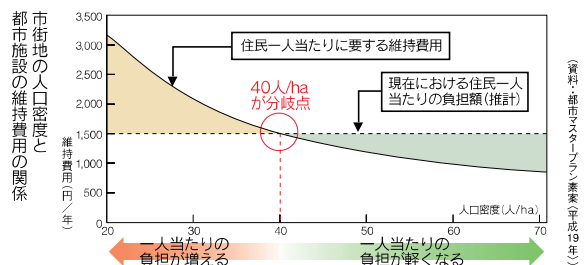
本市の人口は、平成52年には2割減少することが見込まれます。高齢

化も進み、平成42年には3人に1人が65歳以上に、5人に1人が75歳以上になります。その結果、車を運転できない、持てない市民が2割も増加することが見込まれます。



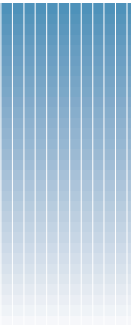
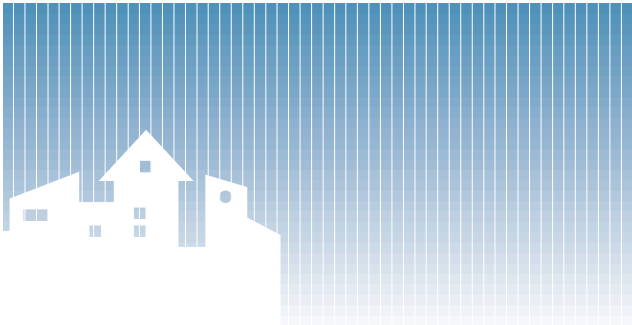
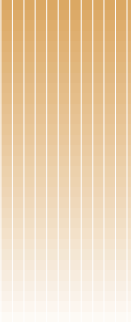
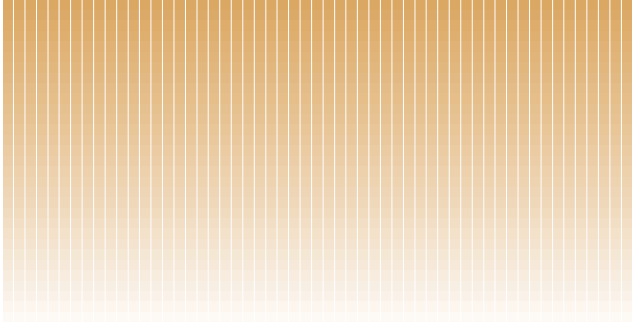
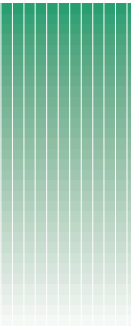
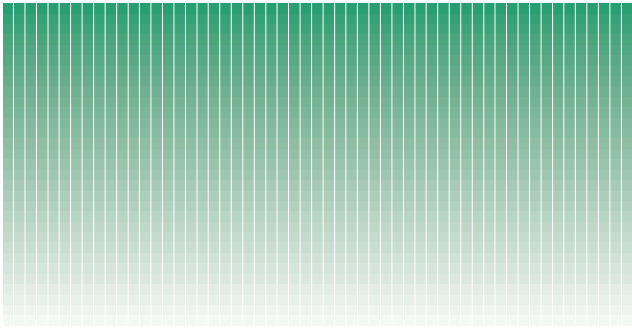
### 2 市民一人当たりの行政コストが増加します

市街地の拡散や人口減少により、人口密度が低くなり、市民1人当たりの維持管理費（除雪・道路清掃など）の増加が見込まれます。このペースで進むと、20年間で189億円もの費用が追加が必要となります。



### 3 都心の空洞化により都市全体の活力が低下します

人口密度の低下に伴い、大きな税収口である都心の活力がさがり、本市の「顔」であるまちの魅力が失われています。税収が減少すれば、公共サービスが低下し、富山市全体の維持発展が困難になるおそれがあります。



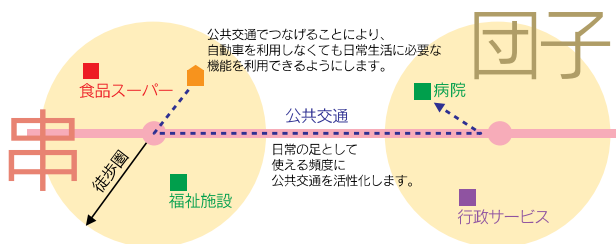
# VISION

## 人口減少・少子高齢社会に備え、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めます

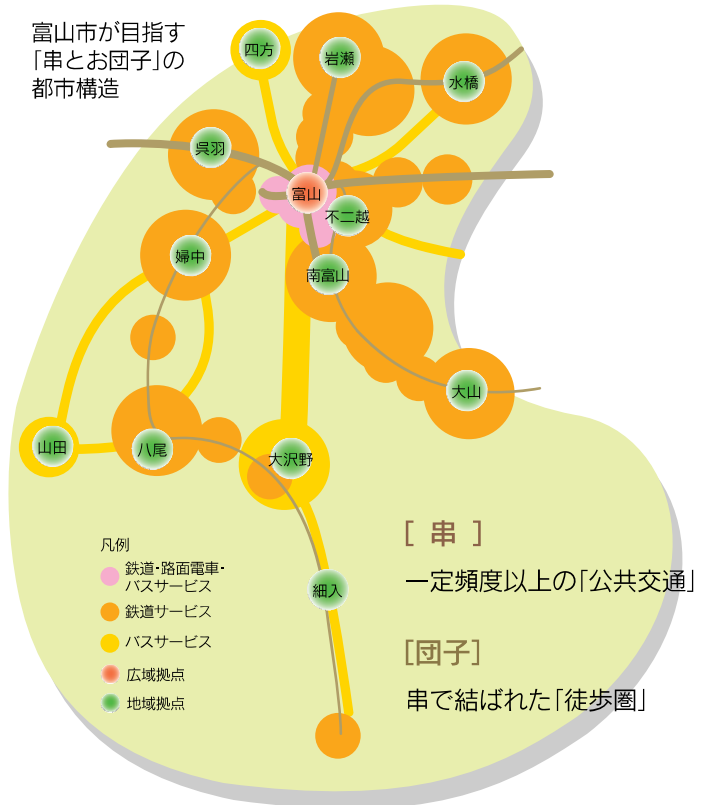
### 「串とお団子」の関係によるまちづくり

今後の人口減少や少子高齢化を踏まえると、社会や経済の規模も小さくなります。そこで本市では居住、商業、業務、文化といった都市機能や生活基盤を歩いて行ける範囲に集約し、行政を効率化する「コンパクトなまちづくり」を進めています。

具体的には、地方都市としては恵まれた鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させます。そして、その沿線における商業の振興や住宅整備支援による居住人口の増加といった都市機能の総合的な向上を図ります。拠点の魅力を高めることで、「車に頼ることなく、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」を目指します。



富山市が目指す「串とお団子」の都市構造



# 中心市街地の活性化を はじめの一歩として。

コンパクトなまちづくりに向けた「串」づくり、「団子」づくりは、着々と進みはじめています。

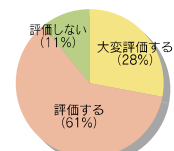
## 「串」づくりについて

公共交通の活性化に向けた取り組み

### 第1弾

#### 富山ライトレール

- ◎我が国初の本格的ライトレール(LRT:次世代型路面電車)です。
- ◎高齢者の外出機会の増加や、自動車利用からの転換により平日の利用者は2,266人から4,988人と2.2倍に。(平成18年10月調べ)
- ◎予定より3ヶ月も早く、開業半年で利用者が100万人を突破しました。
- ◎沿線地域以外を含む全市民アンケートで、9割の方から評価をいただきました。



富山ライトレールに対する評価

### 第2弾

#### JR高山本線社会実験

- ◎JR高山本線は旧5市町村を結び本市の南北公共交通軸です。
- ◎昨年10月より運行本数の増加や終電時間の延長を行いました。併せて、各駅でフィーダーバスの運行や無料駐車場を設置することにより、利用者の増加を目指します。
- ◎実験は平成20年3月までの1年6ヶ月間です。



### 第3弾

#### 市内電車環状線化

- ◎富山駅周辺地区と中心商業地区のアクセス強化や、都心地区全体の回遊性を強化します。
- ◎平成21年度内の実現を目指します。



## 「団子」づくりについて

市全体に徒歩圏をつくる取り組み

### ① 中心市街地の徒歩圏の充実

コンパクトなまちづくりにおける「拠点(団子)」づくりを、最も都市機能が集積した徒歩圏域である中心市街地においてまず行います。

中心市街地は、商業、娯楽等、多種多様な都市機能が集積するとともに、飲食料品、医療等の生活利便施設が集積した徒歩圏です。加えて、地方都市としては恵まれた鉄軌道網や開業予定の北陸新幹線がすべて富山駅で結節する公共交通の要となる地域です。

### ② 公共からきっかけをつくる

公共投資を呼び水に、民間の投資意欲を促します。

市民や民間事業者の方が、郊外の住宅地や幹線道路沿いではなく、中心市街地内の青空駐車場や空き地・空きビルなどに投資していただけるよう、集中的に公共投資を行いPRをすることで、民間サイドの投資意欲を促します。

### ③ 中心の活性から市全体へ

中心市街地の活性化により、富山市全体の活力向上を目指します。

中心市街地は富山県中部地域の商圏、通勤圏の中心であり、その投資波及効果は多くの市民や観光客等、市内全域に及ぶこととなります。また、中心市街地で活発な経済活動がなされることで大きな税収が生まれ、市域全体にわたる道路や公園等、都市の維持管理を安定継続的に行うことが可能となり、周辺地域の維持発展も含めた富山市全体の活力向上につながります。

富山市中心市街地活性化基本計画が  
国により認定されました。

昨年の8月に中心市街地活性化法が改正され、内閣総理大臣を本部長とする中心市街地活性化本部が認定をした地域だけに補助金を配分するなど、支援策の重点化が図られることになりました。富山市では国による重点的な支援を得るべく、活性化基本計画を策定し、本年2月8日に、全国第1号として認定されました。

# Plan Policy

## 計画の3本柱

活性化にあたって、3つの柱を設定しました。各分野毎に数値目標を設定することで、活性化が図られているかを定期的にチェックしていきます。

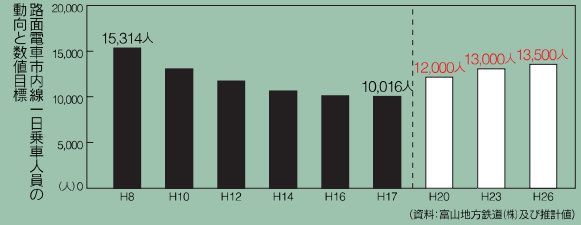
### 1 公共交通の利便性の向上

～公共交通の活性化により、車に頼らずに暮らせる中心市街地の形成を図ります

少子化や事業所、公共施設の郊外移転により、通勤・通学者が減少しています。

市内電車環状線化事業などにより利用者を増やします

路面電車市内線の乗車人員の目標  
13,000人  
(平成23年度)  
【目標】  
5年間で約1.3倍に増やします



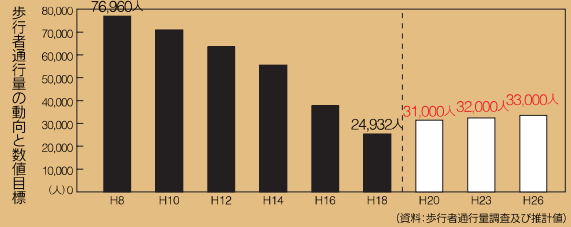
### 2 賑わい拠点の創出

～魅力と活力を創出する富山市の「顔」にふさわしい中心市街地の形成を図ります

中心部のスーパー、百貨店閉鎖や、大型郊外店の開店のたびにまちなかを歩く人が減少しています。

百貨店の移転をはじめとし、各種の賑わい施設により歩行者通行量を増やします

歩行者通行量の目標  
32,000人  
(平成23年度)  
【目標】  
5年間で約1.3倍に増やします



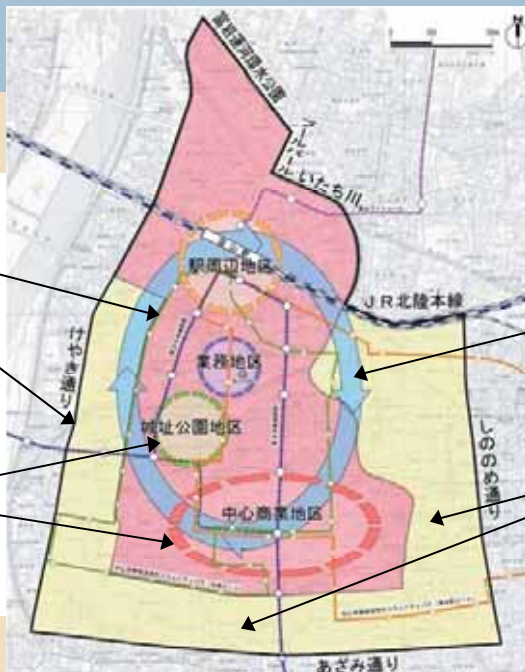
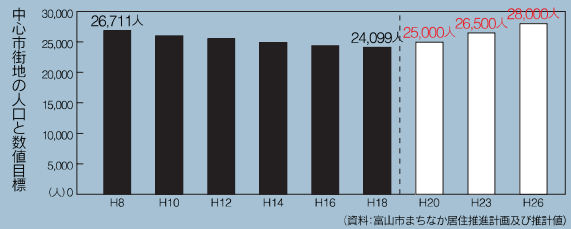
### 3 まちなか居住の推進

～魅力ある都心ライフが楽しめる中心市街地の形成を図ります

昭和38年以来、まちなかに住む人が、一貫して減少しています。昨年43年ぶりに人口が増えました。

引き続き、まちなか居住推進事業などにより人口増加に取り組めます

居住人口の目標  
26,500人  
(平成23年度)  
【目標】  
5年間で約1.1倍に増やします



旧中心市街地

新中心市街地

賑わい創出の事業は、引き続き集約を図ります

公共交通による回遊性を向上し、拠点相互の連携を図ります

商業地域だけでなく、住居系地域を含む区域を設定します

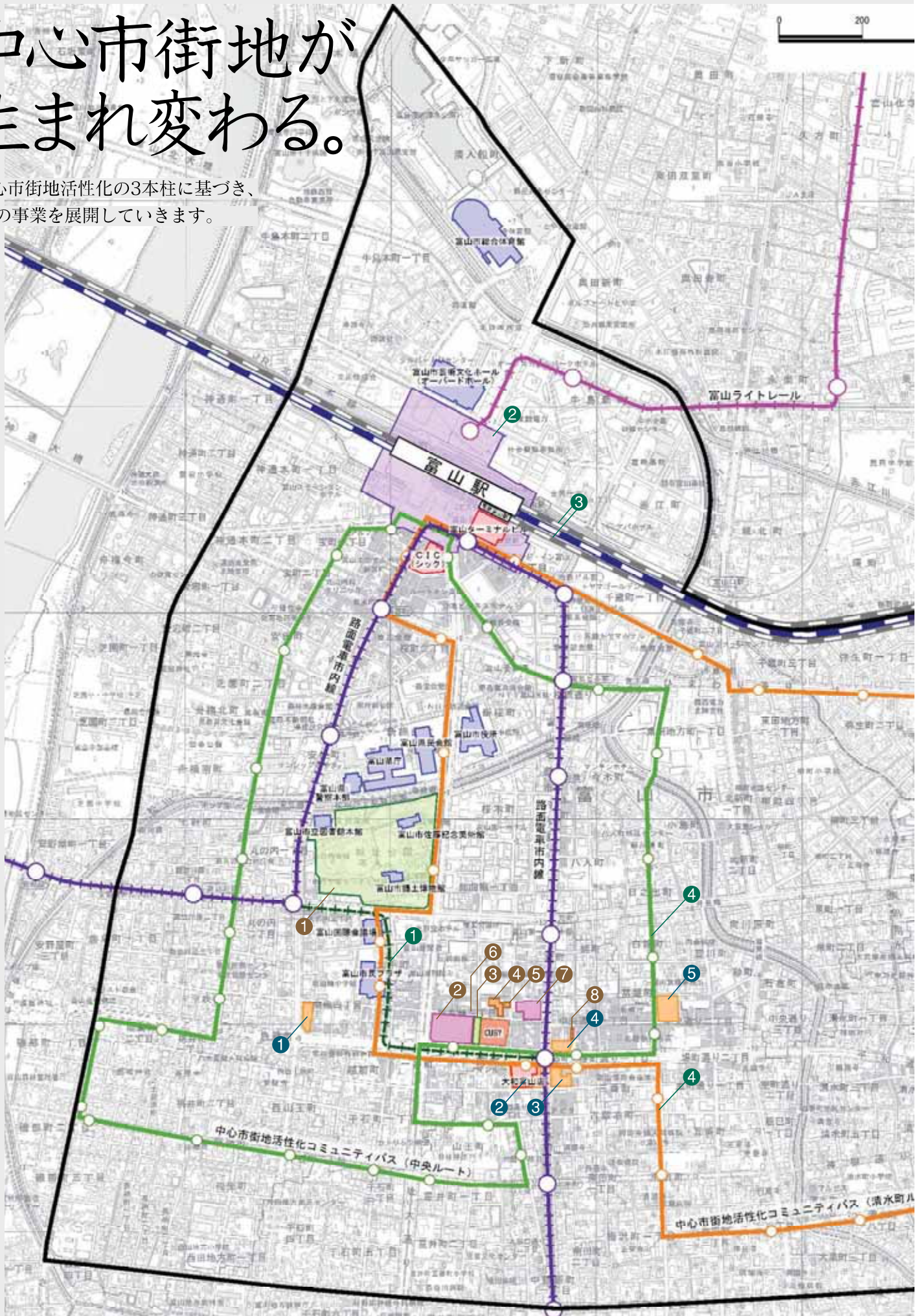
## 計画期間と区域

計画期間は平成19年からの約5年間です。ただし計画期間終了後も、平成26年度末に予定されている北陸新幹線開業まで、引き続き中心市街地の活性化に取り組んでいきます。

計画区域は富山駅周辺や中心商業地区(総曲輪・中央通り・西町)を含む約436haです。

# 中心市街地が生まれ変わる。

中心市街地活性化の3本柱に基づき、27の事業を展開していきます。





## 1 公共交通の利便性の向上



1 路面電車環状線化事業 (イメージ図)

富山駅周辺地区と中心商業地区とのアクセス強化や、都心地区全体の回遊性と魅力の向上を図ります。

- 2 富山駅周辺地区土地区画整理事業
- 3 富山駅付近連続立体交差事業



富山駅の南北一体化を図り、路面電車や路線バスを含めた公共交通の拠点性を高めます。

- 4 中心市街地活性化コミュニティバス運行事業



まいどはバス

- おでかけバス事業



満65歳以上の市民を対象に、郊外と中心市街地間の運賃を100円とし、来街者の増加と公共交通機関の利用促進を図ります。

## 2 賑わい拠点の創出

- 1 富山城址公園整備事業
- 2 総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業 (大和富山店)



濠や石垣を修繕し、葉草園や駐車場等を整備します。



平成19年秋オープン

地下1階・地上7階の再開発ビルです。

- 4 「賑わい交流館」整備運営事業



平成19年春オープン

閉鎖されていた映画館を活用し、娯楽施設の整備運営を行います。

- 3 グランドプラザ整備運営事業



平成19年秋オープン

地上4階相当全天候型ガラス屋根の広場を整備します。

- 5 「賑わい横丁」整備運営事業



平成19年春オープン

青空駐車場を活用して「屋台村」の整備運営を行います。

- 6 中心商店街魅力創出事業
- 7 総曲輪開発ビル再生支援事業

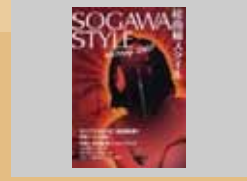
- 8 街なかサロン「樹の子」運営事業



- 街なか感謝デー開催事業



- 総曲輪オフィシャルガイドブック作成事業



- 大規模小売店舗立地法の特例措置
- ICカード活用による商業等活性化事業
- アーバンアテンダント事業

## 3 まちなか居住の推進

- 富山市まちなか居住推進事業

◎住宅取得に50万円/戸、賃貸住宅の入居に1万円/月を補助します。  
◎共同住宅の建設や商業ビルから住宅に転用する場合に100万円/戸を補助します。

- 低未利用地活用推進調査事業

散在する低未利用地を集約する等の土地利用方策を検討するとともに、問題解決の重要性について意識啓発を行います。

- 介護予防施設整備事業

- (仮称)富山市高齢者の持家活用による住み替え支援事業

まちなか居住を希望する高齢者世帯の持家を市が借上げ、広い住宅を必要とする子育て世帯等に転貸する制度を創設します。

- 1 総曲輪四丁目・旅籠町地区優良建築物等整備事業



- 2 西町南地区第一種市街地再開発事業

- 3 西町東南地区第一種市街地再開発事業

- 4 堤町通り一丁目地区優良建築物等整備事業



- 5 中央通り地区fブロック第一種市街地再開発事業



# 富山市中心市街地の未来像

平成26年度に予定される北陸新幹線開業時の富山市中心市街地の未来像を描いてみました。このようにこれからも暮らしてみたいと思える中心市街地とするように、商業者、市民、行政の総力戦で、活性化を進めていきます。

## 富山に戻って楽しい家庭ライフ

### 子育て世代の皆さんの例

≫ 大学を卒業して就職し、東京本社勤務をして15年あまり。近年、富山の経済が元気なことを理由に、富山営業所ができることになり、富山出身の私が転勤することとなった。



≫ 出張で8年ぶりに帰った富山市中心市街地は、見違えるように賑やかだった。昔は閑散としていた総曲輪通りなどを、大勢の若者やお年寄りが楽しそうに散策している。グランドプラザなどでは、街角パフォーマンス等のイベントが毎週末展開されているようだ。賑わい交流館「フォルツァ総曲輪」の開設で、再びまちなかで気軽に映画や演劇などの様々な文化活動に触れられるようになったのも魅力だ。



≫ 朝取り野菜、富山湾の海産物などの新鮮な食料品を、歩いて手軽に買える店がいくつもあり、ICカードで買い物ができる環境も整っていて、小銭をジャラつかせることも無い。路面電車やバスを使えば、中心市街地からは海や山へのレジャーも気軽に楽しめる。

≫ 東京に比べれば中心市街地の家賃は格段に安いし、市がまちなか居住の施策を進めていて、住宅取得補助や家賃助成もあるらしい。車に頼ることなく生活ができるならば、運転が苦手な妻も満足して付いてきてくれるだろう。中心市街地での新生活、悪くないな。



## 郊外から中心市街地に移って健康ライフ

### 高齢者の皆さんの例

≫ リタイア後の生活を満喫していた私も、気が付けばあと少しで70歳。最近では少し健康にも不安を感じるようになった。子どもは独立し、郊外に建てた自宅には妻と私の二人だけだ。最近では妻が私の車の運転を怖いと言い、外出が少なくなった。とはいえ、車で買出しは必要だ。事故を起こさないか心配だ。



≫ 最近、富山は公共交通で全国の注目を集めている。中心市街地では環状線化された路面電車が、市民の足として機能しているようだ。北陸新幹線の開業後にはライトレールと路面電車が直結し、ますます便利になるらしい。また、おでかけバスの制度やまいどはやバスの運行で車に頼らずに生活できる。やはり、年をとるとこうした公共交通が充実したまちが便利なのだろうな。

≫ 春に夫婦で中心市街地を訪れたときには松川べりの桜がきれいなのが印象的だった。商店街には色々なお店が集まり、買い物やイベントを楽しむ人で賑わっていた。何と言っても、食料品などの生活必需品を歩いて買いに行くことができるのはうれしい。



≫ 冬のきつい除雪作業も、マンションに住めば心配ないだろう。まちなかは歩道の除雪も充実していて、冬でも困ることはないらしい。高齢者に対しては、中心市街地への住み替えを支援する制度もあるそうだ。充実した老後を過ごすため、中心市街地に引っ越すのも悪くないな。



このパンフレットについてのお問い合わせは下記までお願いします

富山市役所 都市整備部 都市再生総室中心市街地活性化推進課

〒930-8510 富山市新桜町7番38号 TEL076-443-2054 FAX076-443-2183 E-mail tyusinsigai-01@city.toyama.lg.jp